

2 学期始業式講話

皆さんおはようございます。本日から2学期の始まりです。

今回はオンラインによる始業式としました。前回体育館で終業式を行った際には大変暑く、扇風機の音で声も聞き取りにくかったようなので、今日はこのような形式をとりました。その折には、「未見の我を探そう！」ということを行いました。皆さんはこの夏休みの間に未見の我に出会うことはできたでしょうか。

先ほど表彰の榮譽に授かった方々には、未見の我に出会えた方もいたと思います。陸上の小針さんは全国の舞台で100m、200mの決勝を走りました。私も100mはテレビで見えていましたが、見事に両方とも2位になりました。この走った仲間があるいは自分が将来オリンピックに出るかもしれない、今後そういう選手たちと知り合うことができたと思います。水泳飛び込みの内藤さんも最高の舞台で出会えた仲間がいたと思います。チアリーダーの皆さんも、そしてゴルフの金指さんも同様だったでしょう。新たな世界を知ることができたことは素晴らしい光栄なことです。

先ほどまで防災図上訓練をしていたのでこれに関連した話をしたいと思います。

私が小学生や中学生の頃は、2学期の始業式は9月1日でした。週5日制ではなく土曜日にも授業があった頃です。前日まで夏休みの友や自由研究を片付けて、さあ学校だという日でしたが、いつもきまって防災訓練、避難訓練がありました。暑い中、校長先生の話聞いて訓練をするのが非常に嫌でした。なぜこの日にやるんだろうとよく思っていました。

この9月1日という日は、今から99年前の大正12年に関東大震災があった日です。ちょうどお昼時に揺れたため昼食時の火災が多かったように言われますが、実際は東京下町の薬品工場が焼けて、大八車で逃げ惑う人々で道が塞がり、それが大惨事となったと言われます。延べ10万人が亡くなり、この中には朝鮮人の方や社会主義者の方々も言われなき理由で殺されました。このことは歴史の授業で改めて学んでください。そういう意味で9月1日に防災訓練が設定されていました。

その後平成7年1月17日に阪神淡路大震災が起きました。早朝まだ暗い中での地震で、この時は圧死された方が多く6000人余りの方が亡くなりました。この頃から震災後のボランティア活動が盛んになっていきます。

皆さんの記憶にあるのは平成23年3月11日の東日本大震災ではないでしょうか。あの日の午後2時46分、私は伊豆の賀茂地区の高校に勤めていて、ちょうど高校入試の会議が一段落して職員室に引き上げてきた時でした。長々と揺れたので、ある先生が「これはひょっとして遠くの地で揺れているんじゃないか」と言いました。まさしくそのとおりで、長々と揺れた後に津波となって襲ったのでした。本当に信じられない光景をテレビを通して見ましたが、想像以上の大惨事となりました。この時皆さんは何をしていたのでしょうか。

私の娘はその時中学校3年生で、4日後の高校入試発表前に保育実習をしていました。伊豆の地もかなり揺れて、その時娘は生まれて初めて長く揺れる地震を体験し、小さな保育園

の園児たちに、「お姉ちゃんと一緒にいようね」と言って抱きしめていたそうです。おそらく皆さんはその頃保育園児ぐらいの年齢ではなかったでしょうか。つまり社会的弱者であったわけで、高校生となった今はその逆に子どもたちを助ける立場になっていることを認識してほしいと思いました。娘は中3生として、子どもたちを助ける立場になっていたことを知ったのです。

自分は社会ではあまり存在の意味のない人間であるとか、自分なんていなくなっていいとか思っている人には、改めて言いたいです。そんなことはない、居るだけでもいい、存在そのものが必要とされているんだということを知ってほしいです。皆さんは必要とされている存在なんです。皆さんがそこにいるだけで子どもたちは安心するし、お年寄りの方も高校生がいるだけで安心なんです。皆さんは社会的弱者から成長して、今度は助ける立場として有事の時は動いてほしいと思います。

3年生の中には18歳になった方もいるでしょう。今年成人年齢が20歳から18歳に下げられて、もう大人としての自覚も必要です。

文部科学省からは、2学期になってもコロナ対策を万全にして学校活動を続けるようにという指示が出ています。このことを十分に頭に入れながら、この2学期過ごしてほしいと思います。まずは明後日からの集中研修がその例でしょう。自覚をもって臨んでください。以上で講話を終わりたいと思います。

(令和4年8月29日、始業式)